

2023 年度  
事業報告書

2023 年 4 月 1 日から  
2024 年 3 月 31 日まで



公益財団法人 日本科学技術振興財団



## 目 次

### 【総合活動】

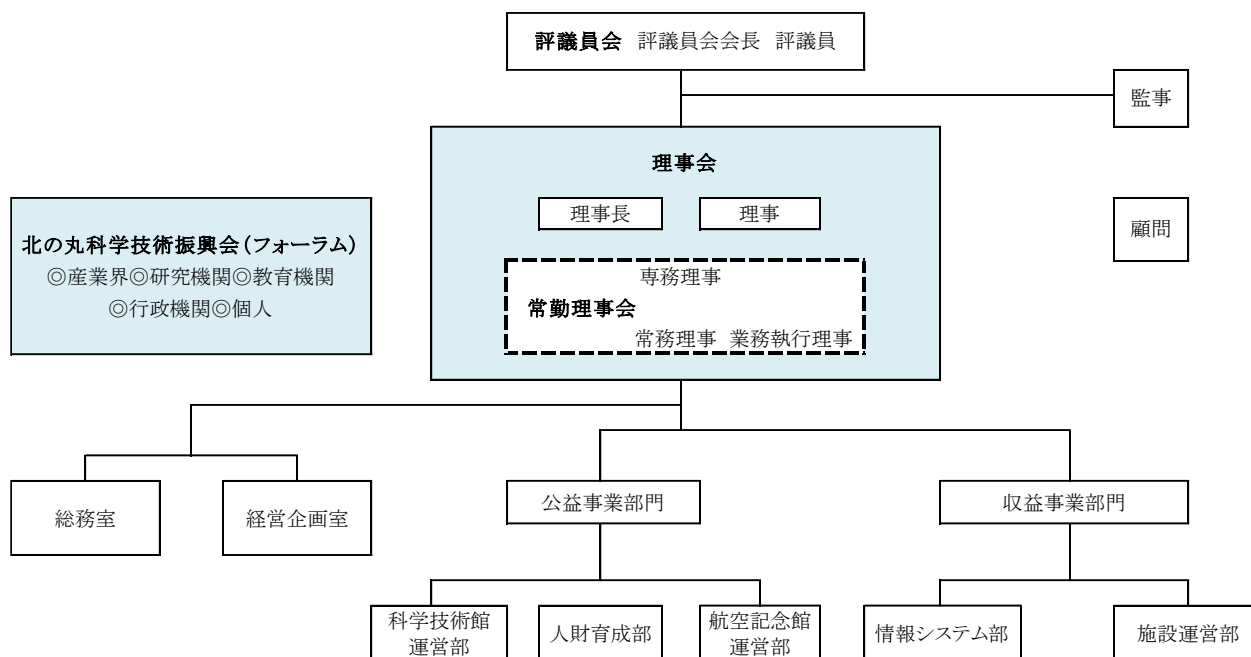
|                        |   |
|------------------------|---|
| 1. 当財団の組織              | 1 |
| 2. 代表理事及び業務執行理事の業務分担   | 1 |
| 3. 会議の開催               | 2 |
| 4. 対外機関との連携活動          | 3 |
| 5. 組織内の活動              | 3 |
| 6. 広報活動                | 3 |
| 7. 新型コロナウイルス等感染症対策について | 4 |

### 【事業活動】

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| I. 科学技術振興事業                   | 5  |
| 1. 科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営・保守支援  | 5  |
| 2. 科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催 | 16 |
| 3. 科学技術の普及啓発や振興に関する調査研究       | 21 |
| II. 情報システムの設計開発と運用サービス事業      | 21 |
| III. 科学技術館施設の利用促進事業           | 23 |
| IV. 補助を得て実施する事業               | 23 |
| V. 助成を得て実施する事業                | 23 |

[総合活動]

1. 当財団の組織 (2024年3月31日現在)



2. 代表理事及び業務執行理事の業務分担 (2024年3月31日現在)

| 氏名    | 業務執行理事 | 役職   | 業務分担   |
|-------|--------|------|--|
| 東原 敏昭 | 代表理事   | 理事長  | 法人代表   |
| 吉田 忍  | 代表理事   | 専務理事 | 法人代表<br>財団経営全般<br>航空記念館運営部担当<br>所沢航空発祥記念館館長(兼) |
| 水木 達郎 | 業務執行理事 | 常務理事 | 財団経営全般(専務理事補佐)<br>経営企画室担当<br>科学技術館運営部担当        |
| 榎水 久恒 | 業務執行理事 | 常務理事 | 総務室担当<br>情報システム部担当<br>施設運営部担当<br>科学技術館建屋改修担当   |
| 木本 徹  | 業務執行理事 | 理事   | 人財育成部担当<br>人財育成部部长(兼)                          |

### 3. 会議の開催

#### (1) 定時評議員会及び臨時評議員会の開催

##### ①第14回臨時評議員会 2023年6月5日

決議事項なし

##### ②第13回定時評議員会 2023年6月5日

議案1. 2022年度の決算書類の承認の件

議案2. 評議員選任の件

議案3. 理事選任の件

議案4. 監事選任の件

議案5. 監事に対する報酬支払承認の件

##### ③第15回臨時評議員会 2023年6月5日

議案1. 評議員会会長選任の件

##### ④第16回臨時評議員会 2024年3月13日

議案1. 評議員選任の件

議案2. 理事選任の件

○上記の評議員会に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

#### (2) 通常理事会、臨時理事会及び書面理事会の開催

##### ①第24回書面理事会 2023年5月15日

議案1. 臨時理事会の招集について

##### ②第23回通常理事会 2023年6月5日

議案1. 2022年度の事業報告及び決算書類の承認の件

議案2. 定時評議員会及び臨時評議員会の招集の件

議案3. 理事会提案として評議員会に提案する評議員候補者の決定の件

議案4. 理事会提案として評議員会に提案する理事候補者の決定の件

議案5. 理事会提案として評議員会に提案する監事候補者の決定の件

議案6. 2023年度補助・助成事業実施に関する件

議案7. 特定資産の目的外取り扱の件

##### ③第12回臨時理事会 2023年6月22日

議案1. 代表理事選任の件

議案2. 理事長及び専務理事各1名選定の件

議案3. 理事長職務代行順位の決定の件

議案4. 業務執行理事の選定の件

議案5. 常務理事の選定の件

議案6. 業務執行理事の業務分担決定の件

議案7. 理事の報酬額の決定の件

議案8. 顧問選任の件

④第25回書面理事会 2024年2月15日

議案1. 臨時理事会の招集について

⑤第24回通常理事会 2024年3月13日

議案1. 2024年度事業計画及び予算書等の承認の件

議案2. 特定費用準備資金等の保有に関する一部計画の変更の件

議案3. 理事会提案として評議員会に提案する評議員候補者の決定の件

議案4. 理事会提案として評議員会に提案する理事候補者の決定の件

議案5. 役員賠償責任保険(D&O保険)の契約の件

○上記の理事会(書面理事会を含む)に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

(3) 常勤理事会の開催

定款第41条第2項及び常勤理事会運営規則に基づいて、毎月2回(原則)、常勤の理事4名による常勤理事会を開催して、理事会決定による事業計画に従い、重要事項の審議、決定を行い、また各事業の報告により情報の共有を図っている。会議の資料及び結果については、電子メールにより、理事及び監事の全員に送付しました。

## 4. 対外機関との連携活動

(1) 北の丸科学技術振興会

北の丸科学技術振興会会員に対し財団の活動報告を行うとともに、財団広報誌において会員企業の社会貢献活動を紹介することにより、既存の51会員を維持し、新規に5会員を獲得しました。

(2) 各種外部企業・団体との連携活動

北の丸科学技術振興会の既存会員を除いた約20の外部企業・団体に対し、将来の連携活動を想定した関係作りを行いました。

## 5. 組織内の活動

(1) 各部との事業連携・人材育成

財団職員のレベルアップを図り、より効率的・効果的な事業展開を行うために、職員研修等を実施し、財団職員の育成強化を図りました。

## 6. 広報活動

財団全体に関わる各種広報活動として、プレスリリースの配信、広報誌「JSF TODAY」の発行、SNSやメール配信を行いました。

## (1) プレスリリースの配信

- ①国内最大級の実験名人たちが集う科学体験イベント！「青少年のための科学の祭典 2023 全国大会」  
2023年7月29日(土)、30日(日)東京・科学技術館で開催(7月)
- ②科学技術館 航空宇宙STEMワークショップ ～ 飛べ！ 跳べ！ 翔べ！ ～ 2023年10月28日(土)  
開催(9月)
- ③2023年度「放射線教材コンテスト」および、2022年、2023年度「放射線授業事例コンテスト」受賞作品の決定について～放射線教育発表会を2023年12月27日に東京・科学技術館で開催～(12月)
- ④「第65回科学技術映像祭」入選作品の決定および入選作品発表会・表彰状授与式について(3月)
- ⑤科学的視点で紹介！「もっと知ろう！火災と消防」2024年3月25日(月)～3月31日(日)東京・科学技術館で開催(3月)

## (2) 財団広報誌「JSF Today」の制作・発行

財団の諸活動に対して深くご理解いただくために、広報誌を発行しました。

- ① No. 168 「音のすがたが見える森」(4月発行)
- ② No. 169 「航空発祥の地で30年を翔る」(7月発行)
- ③ No. 170 「つながる力、集う喜び」(10月発行)
- ④ No. 171 「SDGsと科学技術教育」(1月発行)

## (3) SNS やメール配信等による情報発信の充実

科学技術館や所沢航空発祥記念館で行うイベントの開催・展示の紹介、財団が行う科学技術理解増進活動の参加募集など、科学技術館並びに財団活動の新着情報をX(旧Twitter)などのSNSやホームページ、メール配信サービス等の適切な手法を用いて一般の方々に向けてリアルタイムに発信しました。

### ①X(旧Twitter)による情報発信

4月1日から3月31日まで148本の投稿により、フォロワー数は前年度から707増の5,010(4月1日現在)

### ②メールマガジンによる情報発信

810号(4月19日)から821号(3月20日)まで12号配信。配信数10,924通(3月20日現在)

## (4) 科学技術館の新規顧客層拡大

科学技術館の新規来館者拡大を狙いとし、新たにシニア層に向けたPRを実施。シニア層向け冊子、ウェブサイトにも館情報を掲載したほか(2月～3月)、チラシを制作し公共施設に配布しました(3月)。

## 7. 新型コロナウイルス等感染症対策について

新型コロナウイルス感染症は収束したが、感染症発生時の業務ガイドラインの見直し整備を、適宜行いました。

財団職員及び来館者が安全で安心できる職場、科学技術館である様、作業環境の見直し改善、衛生面での対策を徹底しました。

## [事業活動]

### I. 科学技術振興事業

#### 1. 科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営・保守支援

##### 1-1. 科学技術館の運営事業

###### ■入館者状況

2023年度は、年間を通じて臨時休館などはなく、入館者数は約39万人となった。年間を通じて個人有料入館者数の増加が顕著となり、2022年度比125.2%の入館者数となった。

###### <入館者状況比較>

|     | 2023年度(人) | 2022年度(人) | 2023/2022 (%) |
|-----|-----------|-----------|---------------|
| 4月  | 19,400    | 20,820    | 93.2          |
| 5月  | 30,616    | 25,836    | 118.5         |
| 6月  | 41,542    | 30,516    | 136.1         |
| 7月  | 45,692    | 36,483    | 125.2         |
| 8月  | 38,280    | 22,982    | 166.6         |
| 9月  | 23,730    | 20,425    | 116.2         |
| 10月 | 23,639    | 21,115    | 112.0         |
| 11月 | 39,482    | 30,911    | 127.7         |
| 12月 | 35,861    | 26,218    | 136.8         |
| 1月  | 24,199    | 23,253    | 104.1         |
| 2月  | 38,686    | 30,230    | 128.0         |
| 3月  | 23,294    | 23,138    | 127.9         |
| 累計  | 390,718   | 311,927   | 125.2         |

ステークホルダーに、科学技術館を魅力ある施設と捉えていただくためには、その特徴をより鮮明化し他施設と差別化を図り、結果として科学技術館の入館者増(入館料収入増)に繋げることが重要課題であるため、展示の新設・更新・開発やイベント開催などの「(1)科学技術館の直接的な運営に対する取り組み」、および既存のコンテンツやノウハウを提供する「(2)他施設向けのアウトリーチ活動としての取り組み」の科学技術館の活動の二つの面を明確にして運営に取り組んだ。

#### (1) 科学技術館の直接的な運営に対する取り組み

##### ①出展誘致と展示更新

###### 1) 助成金などを活用した展示更新



2023年度の科学技術館の新展示として、量子技術が実現する未来社会について、子どもから大人までの幅広い世代が学べる展示室の整備を助成金の活用を基に計画していたが、不調となり、2024年度に実施すべく、計画を1年先送りした。

## 2) 新規出展団体の誘致による展示新設

新しい産業センター出展として、4階の回廊廻りに、家電リサイクル対象4品目の実物カットモデルの展示や、家電リサイクルの必要性やリサイクルのための選別技術などの、家電リサイクルの取り組みについて紹介する「家電リサイクル ベース」(出展：一般財団法人家電製品協会)が6月15日にオープンした。

## 3) 科学技術館オリジナル展示物の開発・設置

科学技術館運営部技術グループを中心に、低予算で科学技術館オリジナルハンズオン展示物を製作した。

回転する大きな円盤上で、球やリングをうまく回すと同じ場所で回転し続ける様子を観察して、物の回転運動について学べる自主制作展示「ターンテーブル」を、5階回廊廻りに設置し、8月4日から公開を始めた。

## ②特別展を含めたイベントの開催

### 1) 年間を通じたイベント開催

入館者数増に繋げられるよう、長期間開催する特別展、また短期的に開催する、外部機関からの企画持込・共催イベントや自主企画イベントの館内での開催数を増やし、年間を通じて館内のイベント開催に取り組んだ。

### 2) 2023年度特別展の実施

巡回展事業で保有する「スポーツを科学する」の展示物を活用し、科学的視点からスポーツ競技・原理を体験できるスポーツ体験イベント「スポーツを科学する」を8月5日から27日まで、実施した。このイベントには、「スポーツをささえる素材」と題し、東レ株式会社より炭素繊維でできているスポーツ用品など借用し、同期間会場前で展示を行った。

期間中の来場者数は、25,713人であった。

### 3) 新規イベントの誘致

新規に館内で実施する、外部機関からの企画持込・共催イベント開催を積極的に取り入れ、イベント開催増に取り組んだ(株式会社テックオリナス、株式会社ブリヂストン/ソフトロボティクスベンチャーズ、東京メトロ×プログラボ事務局、アース製薬株式会社、日本プラ寝たリウム学会、株式会社化学工業日報社)。

### 4) 既存コンテンツの活用による自主企画イベントの開催

既存コンテンツを有効活用し、スタッフの自主企画によるイベントの開催に取り組んだ。年間で6種類のイベント開催を実現した。

### ③ 広報発信内容の見直し

来館者増を目的とした広報発信は従来通り継続しつつ、科学技術館をドラマ・映画などの撮影場所など既存施設の有効活用のための情報発信を行い、ドラマ、CM撮影を4件実施した。

また、出展誘致のために具体的な誘致場所例を作成、活用することで新規イベントを誘致し、実施イベント広報を展開した。

#### 1) 入館者動向の分析

2023年4月1日より、開館時間をコロナ禍以前の9時30分から16時50分までに戻し、1年間運営した。また、9月から団体来館者の休憩室における食事利用を再開した。

6月の学校団体による来館者数が大きく増えた。新しい学習指導要領で小学校の社会科における政治(公民)の学習時期が前半に変更されたことによる影響が見られている。2023年度は埼玉県の学校が6月に多く来館している。以降措置の段階であるが、2024年度以降は他県の学校も変更することが予測される。

#### 2) 科学技術館 web ページや SNS などのインターネットツールを活用した広報活動

来館者増のために、展示更新情報や、特別展・各種イベントの開催については、情報発信頻度をより上げられるよう日々の情報収集に努め、科学技術館 Web ページでの情報発信だけに留まらず、経営企画室と連携して、メールマガジン、X(旧 twitter)等の SNS により常に最新の情報を発信した。

#### 3) 出展団体の広報の支援

出展団体が意図する広報協力として、5階H室「サウンド」展示室の紹介動画制作(一般財団法人日本宝くじ協会)、3階E室「アトミックステーション ジオ・ラボ」展示室の新展示紹介動画制作、4階G棟「家電リサイクル ベース」(一般財団法人家電製品協会)新展示に関する取材受け入れを行った。

#### 4) 入館者誘致活動

個人利用および団体利用による月ごとの来館者予測を行い、来館者予測数が目標数を下回る可能性がある月間において、当該期間に意図的に自主企画イベント、持込イベントの実施計画を立て、来館者増につながるよう、計画的なイベント実施を行うとともに、科学技術館 Web ページにて早めの告知を行った。

また、2022年度に実施した、クラウドファンディングのリターン(支援者向けの特典体験)として、屋上見学会&屋上サイエンスショー、5階「FOREST」ガイドツアー、特別ワークショップの講師側助手体験などを通じ、再来館のきっかけづくりを実施した。

#### 5) 施設利用紹介の広報

科学技術館の既存の施設や設備の積極利用を訴求するため、ロケ地利用、教育文化施設プロデュース紹介ページを新設。科学技術館の事業広報、認知度を高めることで事業展開につながるよう取り組むことで、ドラマ、CM撮影4件受け入れを行った。

#### ④新規事業への取り組み

新規事業として、助成金を活用した調査研究、展示物制作に取り組んだ。

##### 1) 一般財団法人新技術振興渡辺記念会による助成金を活用した調査研究

一般財団法人新技術振興渡辺記念会の科学技術調査研究助成事業の助成金を活用し、「科学館における仮想空間を活用した学習の手法・あり方に関する調査研究」をテーマとして、仮想空間を使った教育プログラムを試作し、来館者に対して試行して、その効果をアンケート調査により測った。

##### 2) 公益財団法人日本財団による助成金を活用した巡回型展示物の制作

公益財団法人日本財団の助成金を活用し、『「火災から身を守るための防災・技術を紹介する」巡回型展示物の制作』をテーマに、火災や消防に関する巡回型展示物を25点、解説パネルを14枚制作した。制作した展示物は、2024年度も継続申請を行い、2024年度での制作展示物と合わせて、巡回型展示物として他施設への貸出しを、2025年度から予定している。

#### (2) 他施設向けのアウトリーチ活動としての取り組み

##### ①他施設の展示設計業務等の受注

他施設の構想、計画、設計、製作、監理等の業務の受注を目指し、業務紹介HPの新設や提案打合せなどの営業活動に取り組んだ。

その結果、栃木県子ども総合博物館の展示物監修業務の受注に繋がった。この業務は2024年1月より着手し、2024年度も継続事業の予定である。

##### ②巡回展示物などの既存コンテンツ貸し出しなどによる収益拡大

当館の既存コンテンツの貸し出しとして、パッケージ化された展示物を貸し出す巡回展示事業があり、2023年度は、10テーマある巡回展示物の中から、「マグネット展」、「究める！マグネット展」、「科学捜査展 #SEASON2」、「光の世界」、「自然現象のメカニズム展」の5つのテーマの展示物を、6ヶ所の施設に貸出しを行った。

### 1-2. 特別展・イベント等の開催

夏休み春休みなどの学校休暇期間以外にも、さまざまなテーマの特別展、自主イベント、企業・団体との連携イベント、共催イベント、自主企画イベントなどを開催した。

#### (1) 特別展・企画展開催

- ・夏休み特別展「スポーツを科学する」 8月5日～27日
- ・春休みミニイベント「もっと知ろう！火災と消防」 3月25日～31日

#### (2) イベント開催

##### ①企業・団体との連携イベント

- 1) 「夢・化学-21」委員会
  - ・『なぜなに？かがく実験教室「カイロを作ってみよう」』 5月20日

- ・『なぜなに?かがく実験教室「光の不思議!?!」』 7月8日
  - ・『なぜなに?かがく実験教室「植物の血管をみてみよう!」』 9月9日
  - ・『なぜなに?かがく実験教室「抽出の原理を知ろう」』 11月11日
  - ・『なぜなに?かがく実験教室「消せる書道液の秘密」』 1月20日
  - ・『なぜなに?かがく実験教室「身の周りのものを利用して電池をつくろう」』 3月16日
- 2) OSA 工房合同会社  
「数楽教室 立体パズル『キューブ26ミニ』!」 4月30日、8月20日
- 3) 株式会社テックオリナス  
「SDGs を学ぼう!! 沖縄を感じる手作り体験」 5月1日、5月4日～6日
- 4) 公益財団法人自動車リサイクル促進センター  
『第6回「クルマのリサイクル」作品コンクール入賞作品展』 6月1日～30日
- 5) 株式会社ブリヂストン/ソフトロボティクス ベンチャーズ  
「ゴムで作る未来のやわらかいロボットの世界をのぞいてみよう!～作って、さわって、考えよう!～」 8月6日、7日
- 6) 文部科学省委託事業「光・量子飛躍フラッグシッププログラム(Q-LEAP)」量子情報処理技術領域  
「量子コンピュータってなんだろう?～目には見えないふしぎな世界がある～」8月11日～13日
- 7) 東京メトロ×プログラボ事務局  
「東京メトロ×プログラボ 無料体験会」 8月12日、13日
- 8) 三菱商事社会貢献事務局(TPR-E)  
「MC SCIENCE SCHOOL」 8月23日
- 9) アース製薬株式会社  
「蚊のひみつを知ろう!」 11月1日～3日
- 10) 一般社団法人日本パズル協会  
「東京パズルデー2023 in 科学技術館」 11月11日、12日
- 11) 千代田区科学教育センター・大妻女子大学  
「天体観測会」 11月18日
- 12) 日本プラ寝たリウム学会  
「2023年全国一斉熟睡プラ寝たリウム」 11月23日
- 13) 全国児童生徒地図作品展連絡協議会・国土交通省国土地理院  
「第27回全国児童生徒地図優秀作品展」 1月18日～22日
- 14) 株式会社化学工業日報社  
「ポケモン実験教室 in 科学技術館」 2月17日

## ②共催イベント

- 1) NHK エンタープライズ

「ロボコン体験ミュージアム 2023 in 科学技術館」 7月22日～30日

2) クリーン・コール・デー実行委員会

「夏休み石炭実験教室」 8月2日、3日

### ③自主企画イベント

1) 「特別実験ショー 光のいろいろ」 6月10日、11日、7月9日、8月2日

2) 「シマシマ・チャレンジ」 11月1日～30日

3) 「冬休み 科学で遊ぼう」 12月23日、24日

4) 「数と原理を考える ～ラ・ビレット展～」 2月2日～28日

5) 「さくらをイメージしたオリジナルグラスを作ろう」 3月20日

6) 「ものづくりミッションに挑戦! 『ひらめき発明ワークショップ』」 3月23日

### ④既存施設(回廊廻り)を活用したイベント

1) 「キャンドル・オルゴール工作」 4月1日から年間延べ90日開催

## 1-3. アウトリーチ活動

科学技術館の運営を通じて蓄積されたコンテンツを他施設などに貸出し、運営支援を行う活動を実施した。

### (1) 巡回展示物の貸出し

10 テーマある巡回展示物の中から、「マグネット展」、「究める! マグネット展」、「科学捜査展 # SEASON2」、「光の世界」、「自然現象のメカニズム展」の5つのテーマの展示物を、6ヶ所の施設に貸出しを行った。

## 1-4. 他館の運営

科学技術館の運営経験と実績を基に、埼玉県指定管理者として所沢航空発祥記念館の運営管理を担い、科学及び技術の普及啓発と人材育成に貢献する事業を実施した。

## 所沢航空発祥記念館の運営 (埼玉县委託事業)

わが国初の飛行場として1911(明治44)年に開設された「所沢飛行場」は、現在埼玉県によって所沢航空記念公園として整備され、県民・市民の憩いの場となっている。所沢航空発祥記念館は、「日本の航空発祥の地」を記念した航空系博物館として、埼玉県により1993(平成5)年に同公園内に建設された。この館の建設にあたり当財団は、基本構想にはじまり展示設計・施工監理等を担い、その後開館後30年間運営に携わってきた。現在は、公益財団法人埼玉県公園緑地協会、一般社団法人埼玉県造園業協会とともに三者で共同事業体を組織し、指定管理者として運営にあたっている。

2023年4月に開館30周年を迎えた記念館では、これまでご来館いただいた多くの方へ感謝の意を伝えるとともに、これからも多くの方に愛される記念館を目指し、開館30周年記念の各種イベントを開催した。

## ■入館者状況

2023年度の入館者数、前年度との比較

|        | 入館者数     | うち大型映像館 |
|--------|----------|---------|
| 2023年度 | 184,283人 | 38,538人 |
| 2022年度 | 165,021人 | 35,052人 |
| 前年度比   | 111.6%   | 109.9%  |

### (1) 展示館の運営

- ①安全を第一に、日常的な入館者対応及び展示解説・実演等を行なうとともに、展示の適切な保守・管理を行うことで、館運営を滞りなく実施した。
- ②開館から30年経過した展示ハード及びソフトコンテンツに対する適切な保守と見直しを実施し、予算の適正かつ有効な配分により効果的な更新・修繕を行った。
- ③埼玉県との連携のもと、展示館内実機のレイアウト変更を行うとともに、県による設備交換工事計画の実施に協働した。  
埼玉県との連携協働のもとに展示及び建物・設備の更新について中期計画策定の取り組みを始めた。
- ④館の趣旨に沿った航空に係る資料の調査・収集・保存活動を行うとともに、特別展において資料の活用を行った。

### (2) 大型映像館の運営

- ①展示館と並ぶ所沢航空発祥記念館の特長である大型映像館について、安全を第一とした日常の運営活動を滞りなく実施した。なお、設備修繕の為、2月27日から3月8日まで臨時休館した。
- ②上映するコンテンツとしては、航空関連のテーマを中心に、余暇利用を目的に所沢航空記念公園に来園するファミリー層等に向けた作品も幅広く組み入れ、公園のビジターセンター的役割も果たした。
- ③大型映像館を利用したことのない来館者にも訴求する活動として、当財団他部門事業と連携した科学技術映像祭入選作品上映会など無料上映会を適時開催した。
- ④大型映像館でも上映できる非劇場向け映画のうち、航空機が登場する作品を中心に上映を行う新企画「たまには映画 観に行かない？」を7月より毎月1回開催した。
- ⑤所沢市による「フランス航空教育団と日仏交流」次の100年事業で制作された短編映画「飛行場のまち 所沢からはじまる物語」を市と連携して大型映像館にて無料上映した。

#### <第1期>

開館30周年記念イベントとして、歴代上映作品の中で人気のあった2作品を選定し、再上映する「おかえり」上映会を開催した。 開催日：4月1日～6月30日

1)-1「恐竜ミュージアム」 開催日：4月1日～6月30日

1)-2「名探偵コナン-星影の魔術師-」 開催日：4月29日～6月30日

1)-3「空をめざして ～アンリ・ファルマン機と挑戦者たち～」

※第63回科学技術映像祭部門優秀賞(教育・教養部門)を受賞した記念館オリジナル作品

「空をめざして」を受賞特別上映した。

※「天までとどけ」との同時上映 開催日：4月 1日～6月30日

1)-4「天までとどけ」

※「空をめざして」との同時上映 開催日：4月 1日～6月30日

#### <第2期>

2)-1「ミラクル・バード 鳥たちの地球大飛行」 開催日：7月 1日～9月30日

2)-2「おしりたんてい コズミックフロント」 開催日：7月 1日～9月30日

2)-3「フライングモンスター」 開催日：7月22日～8月31日

2)-4「傑作機零戦と人間 堀越二郎」 開催日：8月 7日～20日

2)-5「空をめざして ～アンリ・ファルマン機と挑戦者たち～」

※「天までとどけ」との同時上映 開催日：8月 7日～20日

2)-6「天までとどけ」

※「空をめざして」との同時上映 開催日：8月 7日～20日

#### <第3期>

3)-1「エアレーサー」 開催日：10月 1日～11月24日

3)-2「星にかたる恐竜」 開催日：10月 1日～12月28日

3)-3「銀河鉄道999 星空はタイムマシーン 太陽系・恐竜絶滅篇」 期間：11月25日～12月28日

3)-4「アポロ11：ファースト・ステップ版」 開催日：11月25日～12月3日

3)-5「空をめざして ～アンリ・ファルマン機と挑戦者たち～」

※「天までとどけ」との同時上映 開催日：12月 6日～28日

3)-6「天までとどけ」

※「空をめざして」との同時上映 開催日：12月 6日～28日

#### <第4期>

4)-1「コズミックフロント 天空の果てへ 有人気球・成層圏飛行への挑戦」

開催日：1月 2日～3月15日

4)-2「紙兎ロペ おれらロケットで飛ばすってマジっすか!？」 開催日：3月16日～31日

4)-3「傑作機零戦と人間 堀越二郎」 開催日：3月16日～31日

4)-4「ノーマン・ザ・スノーマン ～流れ星のふる夜に～」 開催日：1月2日～3月31日

#### <たまには映画 観に行かない?>

5)-1「トップガンマーヴェリック」 開催日：7月 8日、9月9日、8月12日

5)-2「華麗なるヒコーキ野郎」 開催日：10月14日、12月9日

5)-3「ピース・ニッポン」 開催日：11月12日(空フェスイベント無料上映)

5)-4「ハドソン川の奇跡」 開催日：1月13日、2月10日

※3月の上映は設備修繕の関係で中止した

#### <市との連携による短編映画の無料上映>

- 6)-1「飛行場のまち 所沢からはじまる物語」 開催日： 4月22日～28日、8月21日～31日、  
9月23日、24日

#### <その他 特別上映>

2024年新年お年玉上映会

- 7)-1「小さな世界はワンダーランド」 開催日： 1月2日、3日

第64回科学技術映像祭入選作品無料上映会

- 8)-1「NHKスペシャル 超・進化論 第1集 植物からのメッセージ ～地球を彩る驚異の世界～」

開催日： 9月2日、3日

- 8)-2「コケの一生 命きらめく足もとの森」 開催日： 9月9日、10日

- 8)-3「コズミック フロント 流星群 星降る夜の謎」 開催日： 9月16日～18日

- 8)-4「SBCスペシャル 宇宙を夢見た高校生たち～スペースバルーン・プロジェクトの1年～」

開催日： 9月30日、10月1日

#### ⑥大型映像館連動イベント

大型映像館と連動させたイベントとして、ガス気球での宇宙遊覧を目指し活動する株式会社岩谷技研の岩谷圭介さん講演会を研修室にて開催した。 開催日： 2月24日

#### (3) 特別展等の開催

- ①過去開催した特別展を中心に、開館から30年の活動を振り返る開館30周年記念特別展「30年を翔(かけ)る」を展示室にて開催した。 開催日： 7月22日～12月28日

関連イベントとして、記念館のシンボルである会式一号機の復元レプリカの製作プロジェクトのメンバーを講師として招き、開館30周年記念公開講座「会式一号機の作り方」を開催した。

開催日： 10月7日

- ②記念館の所蔵資料を中心に、1903年に生まれ生誕120周年を迎える零戦設計者の堀越二郎に関わる特別展「生誕120周年&航空120周年 堀越二郎回顧展～零戦設計者・堀越二郎の航空の道に捧げた生涯を辿ります～」を展示室にて開催した。 開催日： 1月18日～6月23日

ミニ企画展「堀越二郎回顧展 生誕120周年記念」と題し、特別展「堀越二郎回顧展 生誕120周年記念」に関して、ミニ企画展を展示室にて開催した。 開催日： 6月22日～12月28日

- ③航空に関する分野の企業や教育機関より協力を得て、計画・実施を通して、ステークホルダーとの関係強化を図った。

#### (4) 施設の運営保守と安全管理の徹底

- ①展示はもとより、館建屋・設備・機器等の日常的保守、営繕、管理を滞りなく実施するとともに、運営に関わる多方面の安全管理を徹底した。

- ②利用者にとってのバリア低減を実現できるよう、未就学児、高齢者、障害者、外国人をはじめ、全



ての入館者が安心して来館し、展示を楽しむことのできる館内の環境整備に努めた。

③来館者の安全を最優先するために必要な対策は適時実施することをはじめ、各種サイン掲示や巡視等による事故の未然防止、防犯カメラ設置、警備員定期巡回、機械警備等、保安と安全管理に努めた。

④年2回の全体消防訓練のほか、計画の見直し改善を繰り返すとともに最新の情報を共有した小規模の防災・消防訓練を随時実施した。

#### (5) 連携活動

①埼玉県、及び所沢市など周辺の自治体や関係団体・関連企業等ステークホルダーとの連携活動を積極的に実施した。

②埼玉県博物館連絡協議会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本ジャイアントスクリーン協会に引き続き加盟し、他館との連携・情報交換を行うとともに、研修等に参加することで活動の質的向上とスタッフの能力・資質の向上を図った。

③国内の航空系博物館同士の情報交換をもとに、展示収蔵資料の貸出しを行い、国内の航空系博物館の展示活動への協力を実施した。また、航空系博物館等6団体と連携して、公開講座「ライト兄弟の足跡から未来の航空機を展望する」をライト兄弟が初飛行を行った日から120年となる12月17日に開催し、他館へライブ配信を行った。

#### (6) 柔軟で弾力的な運営への取り組み

新型コロナウイルス感染症拡大防止に繋がる各対策の徹底をはじめ、状況変化への対応力と柔軟性を心掛け、施設として本来の目的達成に至るよう努めた。

また、各種の割引対応や年間パスポート等の発行を行ない、来館者層の拡大やサービスの向上に繋がった。春休み・ゴールデンウィーク・夏休み等には固定休館日である月曜日も開館とする等、利用機会の拡大と利便性向上を図った。

#### (7) 広報活動

①余暇利用等の目的で来園する所沢航空記念公園利用者にも当館に興味を持ってもらえるよう、共同事業体を組む埼玉県公園緑地協会とも連携協力して園内広報を実施した。

②来館者はウェブページによる事前の情報収集を行う割合が高いことを踏まえ、記念館ウェブページを積極的に活用し、館の基本情報やアクセス情報、そして展示館及び大型映像館の案内情報や最新情報の発信に努めた。

③県内・市内からの利用者が多くを占める施設であることから、県政・市政記者クラブを通じたプレスリリースを適宜行うほか、地元の地域紙および地域のコミュニティFMラジオと積極的に連携しPRを図った。

④当財団の運営する科学技術館内にも広報スペースを設けるほか、国内の航空系博物館とも連携し、広報物の相互配架を行った。

## (8) 普及啓発活動

### ①飛行機工作教室、公開講座の開催

工作完成後に公園内でテストフライトができる利点を活かして、青少年を中心に航空機及び航空分野への興味・関心に繋がるよう、飛行機工作教室を開催した。

工作教室数：10回／年、延べ参加者数：145人

航空に関する専門家等をお招きして、一般向けの公開講座を開催した。

「会式一号機のつくり方」 10月7日、参加者数：31名

「ライト兄弟の足跡から未来の航空機を展望する」 12月17日、参加者数：148名

※航空系博物館等6団体と連携して他館へライブ配信を行った先の参加者も含む

「航空管制の役割と業務」 3月10日、参加者数：50名

### ②友の会「キッズ・チャレンジ倶楽部」の実施

当財団の持つノウハウを活かして、小学1年から6年生を対象とした「理科」「数学」「工学」「自然」など、多種多様な分野から組立てた工作・自然観察など、家庭や学校では体験できないプログラムを教室として実施することにより、青少年に航空や自然科学に興味を持ってもらう機会を提供した。

開催教室数：23回／年、延べ参加者数：234人

### ③ワークショップコーナーの運営

科学技術館におけるノウハウを活用して、実演、実験、工作や体験をもとに来館者とのコミュニケーションを軸として解りやすく解説するワークショップコーナーを運営した。担当するスタッフのスキルアップ勉強会等を定期的に開催し、加えて既存プログラムのブラッシュアップを行うことにより、「空を飛ぶ」ことへの好奇心を刺激し、航空を通して広く科学・技術への興味・関心を促した。

開館30周年記念として、記念ロゴ入りのオリジナル用紙を使って、のり付けひこうきをつくるワークショップを開催した。 開催日：7月1日～2024年3月31日

### ④アニバーサリースタンプラリーの開催

開館30周年記念として、記念ポストカードに、展示館内を周りながら、飛行機や植物などのオリジナルスタンプを選んで押して、自分だけのポストカードを完成させるスタンプラリーを開催した。

開催日：4月1日～12月28日

## (9) ボランティア活動の充実

記念館の運営を支援するボランティアの活動の場として、飛行機工作教室、YS-11・格納庫の特別公開、展示航空機等の保守・メンテナンス活動等を実施した。ボランティアスタッフの豊富な経験と有用な知識を来館者に向けて提供する機会を設けることにより、航空への興味・関心に繋ぐとともに地域との連携を深めた。

## (10) ミュージアムショップ及びレストランの運営

### ①ミュージアムショップ

ミュージアムショップ店内は狭小であるため社会的距離を確保することが難しいことから、店舗前

のエントランスロビーに商品棚を展開し運営した。開館 30 周年イベント等と関連したオリジナル商品の開発・販売を行った。

## ②カフェレストラン

新型コロナウイルス感染症対策を徹底した営業とする為、店内飲食を避けテイクアウト専門を主としつつ、イートインの利用で9月上旬まで営業し、その後、店内内装・テラス席及びメニューのリニューアルを行い、10月より通常の店内利用での営業を再開し、利用者サービスの向上に努めた。

## (11) その他の活動

①開館以来 30 年を経過したことで老朽化等が課題となる常設展示及び館施設・設備について、日常的業務では修繕等を行い品質の維持向上を図った。また、埼玉県による「展示リニューアル計画」に協働し推進した。

②埼玉県による「施設の長寿命化計画」に協働し推進した。

③公園利用者への更なるサービス向上を図るため、指定管理共同事業体間の連携をより活性化し、「空フェス」イベント等の共同開催を実施した。

## 1-5. 教育文化施設に対する企画・開発・保守支援事業

科学技術館の運営ノウハウを基に、他施設の保守点検、企画開発業務を実施した。

### (1) プレアデス事業による保守、運営支援

サイエンスヒルズこまつ 3D スタジオ保守点検業務(小松市受託事業)は、7月に保守点検を実施し、12月に業務が完了した。

### (2) 企画開発業務

大東文化大学は 2023 年設立 100 周年を迎え、大学で所蔵する書道、中国の漢籍などを展示するミュージアム設立構想があり、基本設計を計画するための類似施設調査業務を実施した。

## 2. 科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催

科学技術体験イベント、科学オリンピックなど、科学技術への興味関心を引き起こすレベルから専門家を目指すレベルまで、広範な活動を通して科学技術系人材の育成事業を推進します。

また、優れた科学技術映像を選奨するコンクールと優秀作品の全国の科学館での上映を行い、映像を通じた科学技術の普及啓発事業を推進します。また、放射線等に関する理解増進活動等を推進し、環境やエネルギーに係る科学技術の普及啓発を図ります。

### 2-1. サイエンス友の会の活動

生物・物理(技術)・化学・地学・天体気象をテーマにした、小学生を対象とした実験イベントを中心に、未就学児と保護者を対象にした低年齢向けや中学生から大人向けといった年齢層を限定したイベント、企業・団体・大学の協力によるゲストイベント、シンラドームを使った特別上映会などの各種プロ

グラムを、4歳～大人までのメンバーを優先参加として、4月～翌年3月にわたって計60回開催し、延べ1,121人が参加した。なお、2023年度の年間パスポートの加入総数大人569名、中高11名、子ども636名の計1,216名であった。イベント応募総数は、1,307件だった。

## 2-2. 科学技術体験イベントの開催

### (1) 「青少年のための科学の祭典」の開催

#### ① 青少年のための科学の祭典全国大会（独立行政法人国立青少年教育振興機構助成事業）

理科実験や工作の実体験を通して、青少年の科学の不思議やものづくりの楽しさへの興味・関心を増進させることを目的とした「青少年のための科学の祭典2023全国大会」を7月29日、30日に開催した。

青少年のための科学の祭典2023全国大会

会期：2023年7月29日(土)、30日(日)

会場：科学技術館 1階 催事場

出展数：54出展、来場者数(延べ)：11,431人

#### ② 青少年のための科学の祭典自主大会

日本全国の市町村において、各開催地の大会実行委員会と当財団とが共催する59の大会が予定されていたが、会場が確保できないこと等により4大会が中止となり、55大会の開催、参加者数134,656人となった。

### (2) 少年少女創造性育成事業業務（公益財団法人市村清新技術財団 委託事業）

公益財団法人市村清新技術財団主催の「第54回市村アイデア賞」の表彰式を11月17日に科学技術館で開催するとともに、11月17日から12月3日に入選したアイデアの作品展示を行った。

また、小中学生を対象にカラーコピー機の仕組みや原理の解説と実機の分解を行う「キッズ・フロンティア・ワークショップ」を12月9日、10日にコンパルホール(大分県大分市)で、2024年3月9日、10日に科学技術館で開催した。

### (3) STEM/STEAM教育プログラムの実施

#### ① STEM教育プログラムの実施（ボーイング社助成事業）

小中学生を対象に、科学、技術、工学、数学の各分野を横断的に学ぶことができるSTEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)教育に基づいたショー・ワークショップなどのSTEMプログラム「科学技術館 航空宇宙STEMワークショップ ～飛べ！跳べ！翔べ！～」を10月28日に科学技術館で開催した。

#### 科学技術館 航空宇宙STEMワークショップ

|        |   |
|--------|---|
| 10月28日 | 飛行のヒミツを解き明かせ！？ ～でんじろう先生と学ぼう わくわく飛行実験！！～<br>(協力：有限会社米村でんじろうサイエンスプロダクション) |
|        | 飛行機の秘密に迫る！ 君も未来のエンジニア？！<br>(協力：有限会社米村でんじろうサイエンスプロダクション)                 |

## 2-3. 科学オリンピック国内大会・国際大会

### (1) 日本生物学オリンピック 2023 の開催、第 34 回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

#### (国立研究開発法人 科学技術振興機構支援事業)

日本生物学オリンピックは、大学等高等教育機関就学前の青少年を対象として、生物学への関心が高く才能ある生徒に国際的なコンテストへの挑戦の機会を提供してその才能を伸ばし、将来のわが国の科学技術を支える人財の育成を図るとともに、広く一般に生物学・生物学教育に対して興味と関心を持ってもらう活動であり、国内大会「日本生物学オリンピック 2023」を開催するとともに、国際大会「第 34 回国際生物学オリンピック」への日本代表派遣を行った。

#### ①日本生物学オリンピック 2023 の開催

「日本生物学オリンピック 2023」の参加申込受付(Web)を5月1日から31日まで実施し、予選を7月16日に全国113会場で実施した。本選は、8月17日から20日に静岡大学静岡キャンパスで開催した。また、日本代表候補者12名を対象とした冬期特別セミナーを12月28日から29日に東京大学駒場キャンパスで実施するとともに、代表選抜試験を2024年3月17日に科学技術館で実施し、成績優秀者から2024年にカザフスタンで開催される第35回国際生物学オリンピック日本代表4名と次点者2名を選抜した。

|            |                                 |
|------------|---------------------------------|
| 5月1日～31日   | 参加申込受付(Web)                     |
| 7月16日      | 予選を全国113会場で実施(参加者：3,255名)       |
| 8月17日～20日  | 本選を静岡大学静岡キャンパスで実施(参加者：予選上位者80名) |
| 12月28日、29日 | 日本代表候補者 冬期特別セミナー(参加者：代表候補者12名)  |
| 2024年3月17日 | 代表選抜試験(参加者：代表候補者12名)            |

#### ②第34回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

第34回国際生物学オリンピック 2023 UAE大会(IBO2023)が7月3日から11日にアラブ首長国連邦のアルアインで開催され、80か国・地域から304名が参加した。日本からは、2022年度に開催された日本生物学オリンピック 2022で選抜された日本代表4名が参加し、金メダル2、銀メダル2を獲得した。

|             |                                  |
|-------------|----------------------------------|
| 3月28日、29日   | 第1回特別教育を埼玉大学理学部で実施               |
| 4月5日        | 第34回国際生物学オリンピック日本代表決定のプレスリリースを実施 |
| 4月29日～5月27日 | 第2回特別教育をオンラインで実施                 |
| 6月17日、18日   | 第3回特別教育を科学技術館で実施                 |
| 7月3日～11日    | 第34回国際生物学オリンピックに日本代表4名が参加(金2、銀2) |

## 2-4. 教員のための理科実験指導育成講座開催

### (1) 教員のための理科実験スキルアップ講座の開催（公益財団法人東京応化科学技術振興財団助成事業）

豊富な経験と確かな理論的裏打ちや細やかな実験演示のテクニックを有する「青少年のための科学の祭典」全国大会実行委員会の先生方が講師役を務め、授業や社会教育活動にすぐに役立つ実践的な理科実験の講習会「教員のための理科実験スキルアップ講座 ～ベテラン教師による実践的理科実験極意の伝授～」を、8月と11月の2回、科学技術館の実験工房で開催した。

|        |             |   |
|--------|-------------|---|
| 8月19日  | 10:30～12:15 | <生物分野>（参加者13名）<br>『肝腎要』～解剖を通して腎臓のはたらきを知る～                           |
|        | 13:30～15:15 | <化学分野>（参加者13名）<br>「気体反応の量的関係と水素の性質について」<br>「簡易型電解装置の製作と水素の燃焼実験の教材化」 |
| 8月20日  | 10:30～12:15 | <地学分野>（参加者15名）<br>「岩石と地質」   |
|        | 13:30～15:15 | <物理分野>（参加者15名）<br>『物体の運動と力と仕事』の実験紹介                                 |
| 11月19日 | 10:30～12:15 | <生物分野>（参加者10名）<br>「時短！顕微鏡観察～準備に時間をかけず様々な生物を顕微鏡で観察しよう」               |
|        | 13:30～15:15 | <化学分野>（参加者10名）<br>「化学変化と原子、分子」                                      |
| 11月23日 | 10:30～12:15 | <地学分野>（参加者15名）<br>「火山活動と火成岩」  |
|        | 13:30～15:15 | <物理分野>（参加者14名）<br>『電流とエネルギー』の実験紹介                                   |

## 2-5. 科学技術映像祭の開催と優秀作品の上映

### (1) 第64回科学技術映像祭の開催

「第64回科学技術映像祭」の「自然・暮らし部門」「研究・技術開発部門」「教育・教養部門」の3部門に対して44機関から94作品が出品され、内閣総理大臣賞に「NHKスペシャル 超・進化論 第1集 植物からのメッセージ～地球を彩る驚異の世界～」(企画・製作：日本放送協会)、文部科学大臣賞3作品、部門優秀賞6作品、特別奨励賞1作品、つくば科学万博記念財団理事長賞1作品、新技術振興渡辺記念会理事長賞1作品、科学技術館館長賞1作品を決定し、3月16日にプレスリリースを行った。

また、科学技術週間の一環として、4月20日、21日に入選作品発表会、4月21日に表彰状授与式・受賞記念スピーチを科学技術館において開催した。入選作品は、科学技術館及び全国の科学館等(全18館)において上映会を行った。

## (2) 第 65 回科学技術映像祭の作品募集及び審査

12 月 1 日から 2024 年 1 月 15 日に「第 65 回科学技術映像祭」の参加作品の募集を行い、31 機関から 56 作品が出品され、内閣総理大臣賞をはじめとする入選作品 14 作品(ダブル受賞を含む)を決定し、2024 年 3 月 11 日にプレスリリースを行った。

## 2-6. 放射線・エネルギー等に関する理解増進活動

小・中・高等学校等の児童生徒、教育職員を対象に、放射線やエネルギー等に関する正しい知識の普及と理解促進を図った。

### (1) 放射線に関する教職員研修及び出前授業の実施(文部科学省委託事業)

文部科学省から 2023 年度の「放射線に関する教職員研修及び出前授業実施事業」を受託し、学校教育における放射線に関する教職員等を対象とした研修と児童生徒等を対象とした出前授業を実施した。また、全国研修会として、12 月 26 日、27 日に科学技術館で「放射線教育コアティーチャー研修会」を開催した。教職員研修及び出前授業の実施件数は 198 件。

### (2) 放射線教育を支援するための情報提供事業の実施

放射線教育を実施する教員を支援するとともに、児童生徒に対して放射線に関する理解を深めるための情報を提供する放射線教育支援 Web サイト「らでい」を運用した。

### (3) エネルギー・放射線教室の開催

7 月 29 日、30 日に開催された「青少年のための科学の祭典 2023 全国大会」においてエネルギー・放射線に関するブース出展を行うとともに、科学の祭典の地方大会や各地の科学館等においてエネルギー・放射線教室を 8 回実施した。

### (4) 放射線教材コンテストの実施

放射線について学んでいる大学生、大学院生等を対象に、児童生徒が学ぶための新しい教材を募集する「2023 年度放射線教材コンテスト」(応募校数：14 校、応募作品数：94 件)を実施した。

### (5) 放射線授業事例コンテストの実施

小・中・高等学校の教育関係者を対象に、放射線教育を検討している教員の参考となる企画、実践事例、教材・教具の開発、学習指導案などの放射線授業事例を募集する「2023 年度放射線授業事例コンテスト」(応募作品数：233 件)を実施した。

### (6) 福島に学ぶプロジェクトの実施

福島県の小・中・高(高専)等での放射線教育の実践活動を支援し、実践事例を放射線教育支援サイト「らでい」にて情報発信する「2023 年度放射線教育実践・情報発信事業 福島に学ぶプロジェクト」(応募校数：3 校)を実施した。

### (7) 放射線教育発表会の実施

放射線教育に取り組んでいる方々を対象に、今後の放射線教育に関する情報交換と研修の機会として、12 月 27 日に科学技術館で「2023 年度放射線教育発表会」(参加人数：130 名)を実施した。内容

は、①放射線教材コンテスト及び放射線授業事例コンテストの受賞作品の演示、②福島に学ぶプロジェクトの応募校の先生方による、福島県での放射線教育の現状や実践事例についてのパネルディスカッション、③両コンテストの表彰式、の3部構成とした。

#### (8) 若手教員を対象とした理科実験研修会の実施

在職10年以内の若手教員を対象に、理科の教科書に掲載されている「定番実験」を安全・安心して実験できるノウハウを研修する「令和5年度 若手教員を対象とした理科実験(実習)研修会」(参加教員:22名)を、8月22日に科学技術館会議室及び実験工房で実施した。

#### (9) エネルギー教育活動を支援する事業の実施

資源エネルギー庁委託事業の「令和6年度エネルギー需給構造高度化対策調査等事業(エネルギー教育推進事業)」に提案書を提出したが、結果は不採択であった。

### 3. 科学技術の普及啓発や振興に関する調査研究事業

7月29日、30日に科学技術館で開催された「青少年のための科学の祭典2023全国大会」の来場者を対象として、来場者の属性、来館のきっかけ、参加の印象、科学の祭典に対する印象、運営面の課題を知ることを目的として、アンケート調査をした。広報面で参考になる結果として、情報入手経路を分析したところ、チラシやポスターなど従来からの広報手法が根強い反面、インターネットサイトや科学技術館ホームページの割合も同程度に大きく、紙媒体・ネットメディアが混在し、経路の多様化が見られた。

また、主に広報面の課題を知ることを目的として、8月28日、及び、30日に、科学技術館の入館者を対象としたアンケート調査を実施した。この調査結果から、インターネットを情報入手経路とする来館者の比率が近年増加しており、今後はSNSを含むインターネットによる発信情報が来館者の情報源の柱の一つとして期待されていることが判明した。

## II. 情報システムの設計開発と運用サービス事業

1. カスタマーサクセス(ビジネスモデルの改善、競争力の強化、よりよい労働環境)をもたらすサービスの提供に注力し、業務の拡大をはかる。
2. リモートワークの利点を活かし活動対象エリアを拡大する。従来顧客先常駐でなければできなかった案件に対し、リモートワークでの活動を提案し受注する。また、エリア戦略として既存顧客の各地の支店等あるいは地理的に近接していない見込み顧客を開拓し、受注提案活動を実施する。
3. 公益部門との連携を通じシナジー効果を図る。公益部門のニーズをもとに財団内デジタルイノベーションを推進する。



4. 顧客との協業として、新規事業・商品を開発するための提案・企画に係る活動を実施する。

実施した主な業務は次のとおりである。

## 1. 情報システム的设计開発

- (1) 学校法人産業能率大学
- (2) 株式会社イセト
- (3) 一般財団法人日本環境衛生センター
- (4) 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
- (5) 株式会社電通総研
- (6) 一般社団法人電子情報技術産業協会
- (7) 株式会社電力計算センター
- (8) 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館
- (9) 株式会社片平新日本技研
- (10) 一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会
- (11) 株式会社 電力テクノシステムズ
- (12) 公益財団法人 日本書道教育学会
- (13) 株式会社日本経営データ・センター

## 2. 情報システムの運用サービス

- (1) 学校法人産業能率大学
- (2) 株式会社イセト
- (3) 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
- (4) 中外製薬株式会社、オムロン株式会社
- (5) 通信教育団体
- (6) 職業訓練法人日本技能教育開発センター
- (7) 株式会社判例時報社
- (8) 一般財団法人電源地域振興センター
- (9) 公益財団法人 日本書道教育学会
- (10) 一般社団法人 日本経営協会
- (11) 一般財団法人 全国科学博物館振興財団

### Ⅲ. 科学技術館施設の利用促進事業

当財団では、科学技術館の施設の一部を貸し出している。1 階の展示・イベントホールは、各種の販売会、技術展、製品発表会、イベント他。地階のサイエンスホールは、週末を中心にエンターテインメント関連の各種イベント、平日は講演会、セミナー、研修会等に貸し出している。また、事務棟 5 階、6 階の会議室も貸し出している。当事業は、収益事業として運営しており、公益目的事業の継続実施の要となる重要な事業である。

今年度、新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、年度後半から徐々に回復基調に乗せた。得意先を中心に各施設の日程調整を行い、顧客満足度を向上させることに繋げた。

#### ■各会場利用件数

| 件数/年度   | 2020 年度 | 2021 年度 | 2022 年度 | 2023 年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 催事場利用件数 | 24      | 36      | 51      | 43      |
| ホール利用件数 | 38      | 93      | 106     | 91      |
| 会議室利用件数 | 113     | 136     | 203     | 190     |

### Ⅳ. 補助を得て実施する事業

2023 年度は実施なし

### Ⅴ. 助成を得て実施する事業

#### 1. 「火災から身を守るための防災・技術を紹介する」巡回型展示物の制作

(公益財団法人日本財団)

「火災」・「消防」をテーマとした、新しい巡回型展示物の制作

(詳細は、P8- ④ -2)公益財団法人日本財団による助成金を活用した巡回型展示物の制作を参照)

#### 2. 青少年のための科学の祭典 2023 全国大会

(独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金)

「青少年のための科学の祭典」の開催

(詳細は、P17- 2-2. - (1) - ①青少年のための科学の祭典全国大会を参照)

#### 3. 教員のための理科実験スキルアップ講座

(公益財団法人東京応化科学技術振興財団 科学教育の普及・啓発事業)

教員のための理科実験指導育成講座開催

(詳細は、P19- 2-4. - (1) 教員のための理科実験スキルアップ講座の開催を参照)

#### 4. 「科学館における仮想空間を活用した学習の手法・あり方に関する調査研究」

(一般財団法人新技術振興渡辺記念会)

仮想空間を使った教育プログラムを試作・試行し、その効果を測定

(詳細は、P8- ④ -1)一般財団法人新技術振興渡辺記念会による助成金を活用した調査研究を参照)

—以 上—